

平成 24 年 2 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 24 年 第 2 回講話

おはようございます。昨日は都内も雪が降っていました。今朝、足利の駅に降りましたら、まだ雪が残っていましたので、こちらも結構降ったんですね。雪は良い場合もあるし、悪い場合もあります。先ほどの塚越代表幹事の言われたように、心のあり方で、どこに焦点を当てるかによって違います。私は、最近雪を見ていると金子みすずの詩が思い出されて仕方ありません。

上の雪、さむかるな。

つめたい月がさしていて。

下の雪、重かるな。

何百人ものせていて。

中の雪、さみしかるな。

空も地面（じべた）もみえないで。

先日、「詩人の魂 金子みすゞと相田みつをの世界」という企画展に行きました。有楽町の国際フォーラムで開かれています。相田みつをの生家や当時の足跡が再現されていました。3月4日まで開催しているようですので、機会があったらご覧になるとよいと思います。

私と金子みすゞとの出会いは、以前もお話しましたが、たまたま本屋で詩集を立ち読みして、これは凄いと感動したのが始まりです。すぐに家内と金子みすゞの生まれ故郷に出かけました。山口県長門市仙崎というところですが、実際に行ってみると素晴らしいところで更に感動を深めました。その後、再度訪れた時にはだいぶ観光地化されており、雰囲気が変わっていて少しがっかりしました。皆さんの中で、行ったことがある方はおられますか？

3名手が挙がりましたので、少し感想をお聞きます。

（会員発表）

金子みすゞは明治 36 年の生まれです。ご主人が浮気をして、みすゞは淋病をうつされて

しまい、精神も病んで 28 歳で自殺をしています。心残りは娘のことだったので、娘を自分の母に託すことを懇願する遺書を遺して服毒自殺しました。晩年は特に可愛そうな人生だったわけですが、そういう人であるからこそ、素晴らしい詩が書けたのだなと思います。

### **感動したなら、動く！**

なぜ、金子みすずについてお話したかと申しますと、私たちが学んでいる陽明学は行動を重んじます。

王陽明の時代は、朱子学という中国の科挙制度の基本になったものの考え方一辺倒でしたから、王陽明も朱子の言う通りに論語を勉強していました。しかし壁にぶつかってどうにもならなくなってしまった。例えば、竹を見ながら、竹というものについて一所懸命本を読んでは考え、考えては学んだけれども、少しも悟れなかった。朱子学は、悟れないのは読み方が足りないからだと考えます。王陽明は、これは自分の学び方が足りないから悟れないのではないと思い至り、朱子学の限界を感じるようになります。そして行動を優先する学び方を実践し始めるのです。現場に行って、現場で体験した中で感じたものを重要視する。行動が先であると悟ります。

その結果、知行合一（知るは行の始めにして、行は知るの成れるがなり）という考えを生み出しました。事上磨錬という言葉も生まれました。事上磨錬とは、自分の日々の仕事を一所懸命やることによって、自分を磨く。そして素晴らしい境地に達することが出来る。机の前に座って本を読むだけでは決して悟り得ない境地が、実行動の中から生まれてくると信じて、陽明学を確立しました。

陽明学が日本に入ってくると、王陽明は文武両道の人ということで受け入れられて、陽明学が広まりました。王陽明はもともと軍人ですが、同時に哲学者であり、教育者であり、思想家でした。戦場に出かけては軍人として戦い、陣地に戻ってくると弟子達に学問を教え、朝になると又、戦地に出かけているという状況で、戦場の中で学びを深め行動したわけです。その繰り返しの結果、文武両道の名将軍と言われるようになりました。文武両道の名将軍というのは、日本人には非常に良い印象を与えたのですが、中国では受け入れられないものでした。もともと中国では、文は文、武は武だけという世界で、文武両道はあり得ないと考えられていましたから、王陽明は異端者の扱いになってしまったのです。

先日泊まったホテルで、そこで働いている中国人の若者と話をしました。その中国人は論語も知らないし、王陽明も知りませんでした。さすがに孔子の名前は知っていましたが、中国では孔子の子孫であるというだけで虐められる時代が、ついこの間まであったという

事実は、勿論知りませんでした。世の中の流れが変わったので、今は、中国も孔子の考え方をどんどん世界各国に輸出しています。ですから同じ人物の評価もかなり変わります。

日本では、王陽明の考え方は陽明学と言われ、現在に至っています。私はその陽明学をベースにして皆様方にお話をしています。

ですから、金子みすずの本を読んで素晴らしいなと思ったなら、行動に移る。生まれ故郷に行って、その空気を吸って、体験することによって、何処でこういう詩が出来たのかが理解できるのです。何事によらず、感動・感激をして、その思いが強ければ強いほど必ず行動に直結します。行動に移らない感動は本物ではないと思っています。皆さんも、例えば良い話を聞いてそれが素晴らしいと思ったなら、即座に動くによろしい。

私が師匠と呼ばせて戴いた方は、木内信胤先生お一人です。詩吟を教わりたと思った先生は坂本坦道先生お一人です。今まで沢山の先生に様々な学問や物事を教えて戴きましたが、師匠とお呼びするのは木内信胤先生ただ一人です。

私は木内信胤先生にお会いする前に、先生の本を何度も読んでおりました。態度の横柄な人だという印象を抱いていました。木内信胤先生が群馬に来られた際、初めて講演会に出かけて行きました。話を聞いているうちにどんどん引き込まれていって、印象ががらっと変わりました。そして先生の話が終わった瞬間に、前に出て行って、「弟子にして下さい」とお願いしていました。それがきっかけでご縁ができて、先生が主宰されていた勉強会にも参加するようになりました。先生が亡くなられてから、「群馬に若い友人が出来た」と先生がご家庭で言って下さっていたとお聞きして、大変嬉しく思っています。

木内信胤先生の学問はとても深いものでした。学問の道を志す、或いは仕事をする場合もそうですが、最初、師匠について学び始めて富士山を登っていくような感じで頂上を目指して進んでいきます。ところがある程度の所まで登ると、私の体験ですが、富士山が逆三角形になって、登ることが難しくなってしまうのです。漢文を教えて戴いていた石川梅次郎先生にそういう話をしましたら、「君、それは当たり前だよ。学べば学ぶほど、知りたいことが増える。自分の無知さ加減が心に染みってくるものだよ。」と言われました。

ですから、努力して頂上まで登れると思ったものが途中で逆三角形に逆転したなら、そこでやっと入り口に立ったと言えるのだと思っています。自分の現在の仕事を真剣に打ち込んで行った時に、自分の仕事が富士山の形で見えている間は、まだ入り口の手前なのです。逆三角形に見えてくると、そこでやっとスタート台に立った、入門編合格だと思ってください。

今、自分がどこらへんに立っているのか。それをお考え戴くのに、陽明学という学問がよいと思ってお話し致しました。つまり行動が先で、体験した後でこれはこうだと理屈で

説明が出来るのです。これは木内信胤先生から教えて戴いたことです。

同時に、感動したなら動く、行動する。そして見直しをする。そういう一連の動きを、あなたがしておられるかどうか。していれば文句はありません。していなければ、行動に移れるように自分の心をもう少し掻き立ててください。学ぶという入り口に立った時、どういう行動をとり、どういう考え方でいくべきか、お話しをするのに良い時期だと思ってお時間を戴きました。

### 恒例の質問

では、いつもの質問を致します。

朝起きてから今まで、嘘をつかなかった方？

朝起きてから今まで、良い時間を過ごした方？

今朝、健康法を何か実践してこられた方？

お聞きする時間が半日と短いせいか、皆さん優秀ですね。

朝起きてから今まで、有難うと言い・有難うと言われた方？

昨日一日、有難うと言い・有難うと言われた方？

前回もお聞きしましたが、もう一度・・・

今年一年、どうしてもやりたいと思うものがある方？

人間、どうしてもやりたいという思いが強ければ強いほど、行動に繋がります。出来たら良いな...くらいでは、なかなか行動に繋がらない。是非どうしても...というものをお持ちになるとよろしいでしょう。

### 本日の論語

今日、素読をされた平原会員は事前に予習をされましたから非常に良かった。ある程度イメージがわいていると、こういうことだと思ってすらすら読めるし、素読も我がものになります。素読をする時には、目の前のスクリーンに登場人物が生き活きと映し出されるように出来ると文句はありません。

では解説を致します。本日は子罕第九 23～30 です。

【二十三】 しいわ 子曰く、ほうご 法語の言は、げん 能く よ 従うこと したが 無からんや。な 之を これ 改むるを あらた 責しと為 たつと ず。そん 異与の言は、よ 能く よるこ 説ぶこと な 無からんや。これ 之を たず 繹めるを たつと 責しと為す。な 説んで よるこ 繹ねず、したが 従いて あらた 改めずんば、われ 吾 これ 之を いかん 如何とも な すること な 末きのみ。

「法語の言」とは、格言・ことわざです。「巽与の言」とは、相手を傷つけずに柔らかく忠告する言葉です。

孔子が言うには、良いことわざがあれば、それに従わない者はあるまい。しかし本当に従おうと思うかどうかが問題だ。それができたなら素晴らしい。

相手を傷つけないように柔らかく忠告すれば、誰でも喜んで聞くものだ。しかしただニコニコと聞いただけでは何にもならない。その真意を尋ね求める気持ちが大事である。良い話を聞いたと喜んだだけで中身をわきまえようとしない、うわべは言葉に従いながら実際に改めない、そういう人を私はどうにもすることはできない。

学びたいと心から思う人でなければ相手に伝わらないし、教え甲斐もない、と孔子は思っています。

【二十四】 子曰く、忠信を主とし、己に如かざる者を友とすること毋かれ。過ちては則ち改むるに憚ること勿かれ。

律儀で約束を守る人に親しみ、自分に及ばない者は友人にしない方が良い。

自分の過ちを素直に認めないのはいけない。過ちは誰に憚ることなくすぐに直さなければいけない。

ちなみに「己に如かざる者を友とすること毋かれ」の部分で、大隈重信は、「私の友人は皆、自分よりレベルが低い。これでは私は友人が一人もいなくなってしまう」と嘆いたそうです。

【二十五】 子曰く、三軍も帥を奪うべし。匹夫も志を奪うべからず。

三軍とは、一軍が12500人ですから、大勢の軍を率いる大将です。

孔子が言うには、大勢の軍を率いる大将の指揮権を奪うことは出来る。けれども、普通の一個人の強固な志を曲げさせることはできない。

【二十六】 子曰く、敝れたる緇袍を衣、狐貉を衣たる者と立ちて恥じざる者は、其れ由なるか。伎わず、求めず、何を用て臧からざらんと。子路終身之を誦す。子曰く、是の道や、何ぞ以て臧しとするに足らんと。

孔子が言うには、ぼろぼろの綿入れのどてらを着て、立派な毛皮の衣を着た人と並んで立っても恥ずかしがらないのは、子路くらいかね。

子路はそれを聞いて非常に喜びました。子路は一生涯孔子の教えを守り続けました。

他人を妬まず、せがまず、善を尽くす。どうして皆、こういう最善の道を選ぼうとしな  
いのか。

前回もお話した「孔子の教え」の映画の中で、子路が冠を正そうと紐を結わえているところを斬り殺されるシーンがありました。子路の、死んでも師の教えを守ろうという意思が表れています。ちなみに子路は孔子が亡くなる前年に死んでいます。孔子は、子路が死んだと聞いて、自分の家にあった塩辛の甕を割ったと云われます。当時の中国は勇者の肉を食べると自分も強くなるといふ風習があり、子路の亡骸は切り刻まれて塩辛にされたと言われています。

【二十七】 子曰く、歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るるを知る。

孔子が言うには、寒気が厳しくなっても、松とひのき（柏）は最後の最後まで緑を保つ。人間も同じである。

学ぶ人は最後まで枯れないということですから、我々も一所懸命学んでいきましょう。

【二十八】 子曰く、知者は惑わず。仁者は憂えず。勇者は懼れず。

孔子が言うには、知恵のある人は迷わないし、徳のある人は心配をしない。勇気のある人はこわがらない。

慎重に慎重に考えて、怖いことを知っていれば、本当に恐がるものを恐がらない。勇者の部分はよく考えるとよろしいと思います。

【二十九】 子曰く、与に共に学ぶべし、未だ与に道に適くべからず。与に道に適くべし、未だ与に立つべからず。与に立つべし、未だ与に権るべからず。

孔子が言うには、一緒に学ぶことは出来ても、同じ道は行けない。一緒に同じ道に行くことは出来ても、同じ位置に立つことは出来ない。同じ位置に立つことが出来ても、同じ利益・収穫を手にする事は出来ない。

中齋塾フォーラムで考えてください。同じ話を聞いても、それぞれ活かし方は違います。それぞれがそれぞれの花を咲かせて欲しいと思っています。

【三十】 唐<sup>とう</sup>棣<sup>てい</sup>の華<sup>はな</sup>、偏<sup>へん</sup>として其<sup>そ</sup>れ反<sup>はん</sup>せり。豈<sup>あに</sup>爾<sup>なんじ</sup>を思<sup>おも</sup>わざらんや。室<sup>しつ</sup>是<sup>こ</sup>れ遠<sup>とお</sup>しと。子<sup>し</sup>曰<sup>いわ</sup>く、未<sup>いま</sup>だ之<sup>これ</sup>を思<sup>おも</sup>わざるなり。夫<sup>そ</sup>れ何<sup>なん</sup>の遠<sup>とお</sup>きこと之<sup>こ</sup>れ有<sup>あ</sup>らんと。

これは詩です。この詩をもとに、孔子が恋愛の話をしました。

「すももの花が風にひらひら翻っている。ため息をついて、私はいつもあなたを想っている。しかしあまりに遠い所にいるものよ・・・」

孔子が言うには、これはまだ相手を本気で愛していない。本当に想えば、家が遠いなどは問題ではない。

## 時事評論

時事問題を話す時のベースは三つです。民主党の無様な手・国債の動向・自然災害という三つの視点で新聞を読み、テレビやネットを見ましょう、と昨年から申し上げます。

### ・国債の動向

今朝の新聞に、インフレターゲットの話がありました。去年はインフレターゲットの是非論がかなり喧しかったという記憶があります。インフレターゲットを出すと、あっという間にハイパーインフレに繋がるから、インフレターゲットを出すこと自体がよくないという論調が多かったわけです。

今朝の新聞を見て驚きました。非常に軽い書き方をしています。「日本の国にとって望ましい物価上昇率は1%である」と日銀総裁が語ったとあります。アメリカは2%とあります。インフレターゲットとは書いてありませんが、まさしくそうです。何故、はぐらかすような言葉を使って、知らず知らずの間にとんでもない方向に引っ張ろうとするのでしょうか。

今や、日本の国債(日本の借金)は1,000兆円と明確に数字を出しています。日本の国の借金はそれだけあって当たり前という常識になっています。ですからインフレターゲットを出してもおかしくはない、誰も文句を言わないような状況になっているので、するっと「望ましい物価上昇率」という言葉に置き換えて出したのだと思います。これは経済の悪化にだんだん加速がかかると感じます。インフレターゲット(物価上昇率を何%にするか)の数字がだんだん上がってきたら、危ないと思ってください。

私は、今年の夏過ぎた頃から、テレビやマスコミにスタグフレーションという言葉が沢山出てくると思います。日本語で訳すと、不況下における物価高です。つまり、収入が減って支出がどんどん上がって、歯止めがきかなくなる。今の日本はインフレとデフレが共存している、歴史的に見ても非常に珍しい時期です。これから出てくるのはスタグフレーションです。尚且つ、もう外国からは、日本の国が経済破綻をするのは時間の問題だと見られています。いつ起きるかだけの話で、起きないということはありません。

私の体験で申しますと、倒産や廃業する寸前の会社を調べると、表面化した負債が1億円あるとした場合、実際は3億円あります。だいたい3倍の債権債務があるというのが実情です。国家も似たようなものだと思いますので、日本国は1,000兆の借金があると公表していますが、もしかすると3,000兆はあるかもしれないと思っています。

ですから日本は今、どうしようもない所まで来ています。どうしようもない所に来たら、日銀がインフレターゲットなるものを、こそっと出したのです。

#### ・民主党の打つ無様な手

消費税について17日の閣議で、「消費税を2014年4月に8%、2015年10月に10%にする」ことを決めました。新聞にも「社会保障・税一体改革大綱」として出ていました。他国は消費税がもっと高いので、日本もこれくらいにしてもよいでしょう。日本は今、これだけ借金漬けなのだから、税金がどうしても必要です・・・と政府は国民に負担を求めています。しかし、政治家は自分たちの身を切ることをしていません。アドバルーンだけあげて中身は少しも削っていないのですから、とんでもない話です。

ですから橋下大阪市長のような動きが出てきたのも、ごく当たり前のことです。政治家がどうにもならないクズばかりだから、必然的に橋下さんや名古屋の河村市長が生まれてくるのであって、生んだのは今の政治家だと思っています。

民主党の打つ無様な手と申しましたが、「<sup>ぶざま</sup>無様」とつけているのは、民主党が良かれと思ってことをやればやるほど、日本の国をどんどん悪化させている。経済を悪くして、社会の仕組みも悪くしているからです。それはなぜか・・・。そういう役回りを持った政権だったから、そうせざるを得ない。意識するしないにかかわらず、時代の流れとして、民主党政権は日本の国を悪くさせるような方法しかとれない仕組み・流れになっているのです。

その理由は、安岡干支学を眺めると分かります。今年は壬辰・みずのえたつです。壬は想像妊娠、辰は大蛤に繋がり屋気楼という意味に繋がります。したがって良い話がどんどん世の中に出回るけれども、最後は全部屋気楼で消えてなくなる。全部ひっくり返って駄



目になる。そういう年回りになっています。民主党が色々と考えて打つ手も、最後は全部ひっくり返って、良さそうに見えても駄目になっていく。そういう流れなので致し方ないのです。

これは六十年周期で見る干支学から考えています。更にそれを裏付けているものが文明法則史学です。文明法則史学は、1000年周期で文明が交代していくという考え方です。西洋文明が誕生し、800年間で隆盛を迎え衰退していく。その後の200年が転換期となって東洋文明に移行する。まさに今は、西洋文明から東洋文明に移行する大転換期の200年の真っ只中にいると私は承知しています。ですから大きな文明が転換をする時に、一つの国家が無くなるとか、一つの文明が減びることは当たり前のことではないかと思っています。

最近特に強く思うのは、人類は、火や蒸気機関、空を飛ぶ能力・水に潜る能力・・・等々、様々なものを発明しましたが、その中で通貨が人類の最大の発明ではないかと思っています。通貨は決裁権を持っています。

今、西洋文明が終焉を迎え、世界を回している資本主義も社会主義・共産主義も終わりです。そうすると次は、知足主義が来るのではないかと私は思っています。その中で、通貨に代わる決裁権を持つものがどこかで生まれると思います。お金を出して物を買う時代は終わり、お金がお金としての効能がなくなる時代に入るのではないかと思っています。

例えばカードです。現金そのものは動かないけれども、カードに決済機能を持たせています。カードが新しい通貨です。

又、ポイント制というシステムは、ポイントを貯めるとお金がなくても物が買えます。私はこのポイント制に知足の考え方を応用してはどうかと考えます。ポイントのベースになるものは知足という考え方で、表面化するのは「有難う」という言葉です。人様から「有難う」と言われたら、それがポイントになって加算される。そういう動きが出てくれば素晴らしいと思います。

「タイム」という映画が公開されていますが、その中では、時間が通貨の代わりです。そういう考え方も現実に生まれているのだと感じます。

このように通貨に代わって決裁権を持つ何ものかが、どんどん世界各国で生まれ出しています。第一、ハイパーインフレを起こした国などは、紙幣に自分でゼロを印字して足していくような、実際にそういう国もあるのです。その国の紙幣発行権を持っている機関が全部機能を握っているのではない。通貨という概念、流通方法、スタイルそのものが変わって崩れてきてしまったのです。ならば、それに代わるべき何ものかがこれから生まれて当然です。それは自然災害や経済の機能が破滅した時、色々なものが複合的に世界で生じ

た時に生まれて、一気に広がっていくものだと思っています。

### 判断基準を持ちましょう

新聞を読む時に気にする民主党の打つ無様な手・国債・自然災害についてお話していますが、これは日本だけ見ていたのではいけません。同じように他の国々を見て戴きたい。私はヨーロッパを見ていて腹がたったのは、ギリシャが破綻しないようにユーロ圏のお金をどんどんつぎ込むわけですが、最近の動きを見てみると、ギリシャを救おうというのではなく、自分の国を守らんが為に約束した条件を反故にして次々に条件を出しています。こんなことをして、世界の秩序など保てるわけがない。今の秩序が守れなくなってくると、国家の言うことを国民は信用できなくなります。

新聞やテレビを見て、これはこうだと判断する。我々に一番必要なのは判断基準です。その判断基準をどこから取るが一番肝心なことになると思います。判断基準をとるのに必要なのは、知識・見識・胆識です。色々な情報を集めて（知識）、その中から自分の判断基準によってこうあるべきだ、こうするのだという見解（見識）を出す。その次に実行力（胆識）を持たなければいけません。先ほど申しました陽明学は、実行力を基本としている学問ですから、学問は陽明学で行くのが良いと考えます。

更に、本質・大局・歴史の観点で、新聞やその他の情報を見てください。本質・大局・歴史というのは、木内信胤先生の考え方と安岡正篤先生の考え方をドッキングして、私なりの言葉で作り直した言葉です。本質は、何を狙っているのか、動機は何かをずっと追いかけてみると見えてきます。大局は、色々な人の立場に立って物事を考える癖をつけると見えてきます。歴史は過去を調べればよい。特に今の時代でお勧めするのは、歴史を調べることです。終戦直後、日本政府はどのような政策をとったのか、日本国民にどういうことを強いたのか、歴史的に調べるとよろしい。ちなみに私が調べた結果感じることは、日本政府は60年数前にやったことと同じことを国民に強いるであろうということです。

人間は環境が変わると、普段やっていることも出来なくなります。ですから判断基準を持ちましょうと申し上げています。世の中がおかしくなった時には、まともな判断が出来なくなります。まともに判断が出来なくなった時には特効薬が要ります。私が持っている特効薬は、「利に放りて行えば、怨多し」という論語の一節です。頭が真っ白になって、どうすればよいか分からない状況に置かれた時、何も考えられなくなった時には、私はこの一節を思い出すようにしています。これを思い出すと、ずっと気持ちが治まって、平静になって判断が楽に出来るようになっていきます。

渋沢栄一さんは「利に放りて行えば、怨多し」について、実業家が修身守るべき規矩準繩である。これを守りさえすれば失敗しないであろうと語っています。又、「私は 84 歳の今日まで、論語を公私内外の基準として守り続けた為に大過なくこられた。したがって世の中の紳士淑女・若人諸君は、是非論語を読んで活用して貰いたい」とも残しています。

是非、皆さんも論語の中から良いなと思う一文を見つけて戴きたいと思います。一番良いのは、自分の実体験と論語の科白がどこかで一致した時に染み込みますから、染み込んだ論語の科白を繰り返し繰り返し我がものとする。我がものにしたらと思ったなら、それを実行に移すことによって裏打ちされます。

論語の中から何か一つ良い判断基準を選び出して、それをお使い戴きたい。日本の国のインフラが崩壊した時、或いは世界経済が破綻した時には、それがそのまま一番使える判断基準になります。是非そのような判断基準を中斎塾フォーラムの中で見つけて戴きたいと存じます。

本日の講話は以上です。有難うございました。